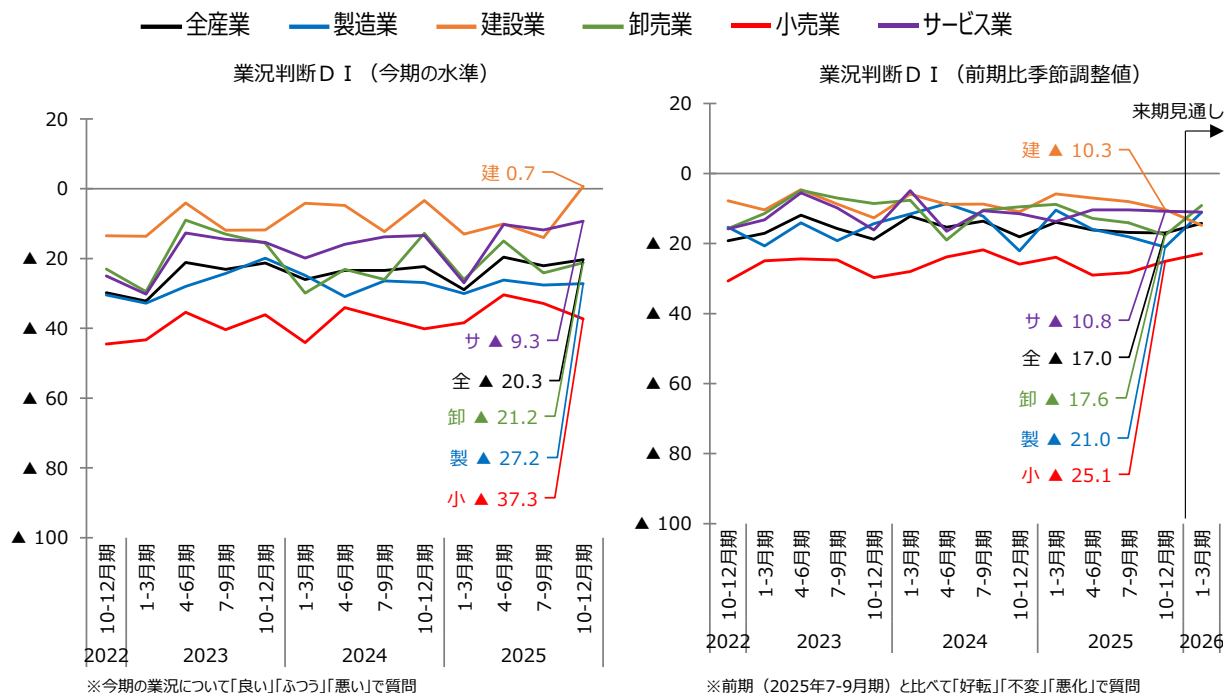


第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 四国



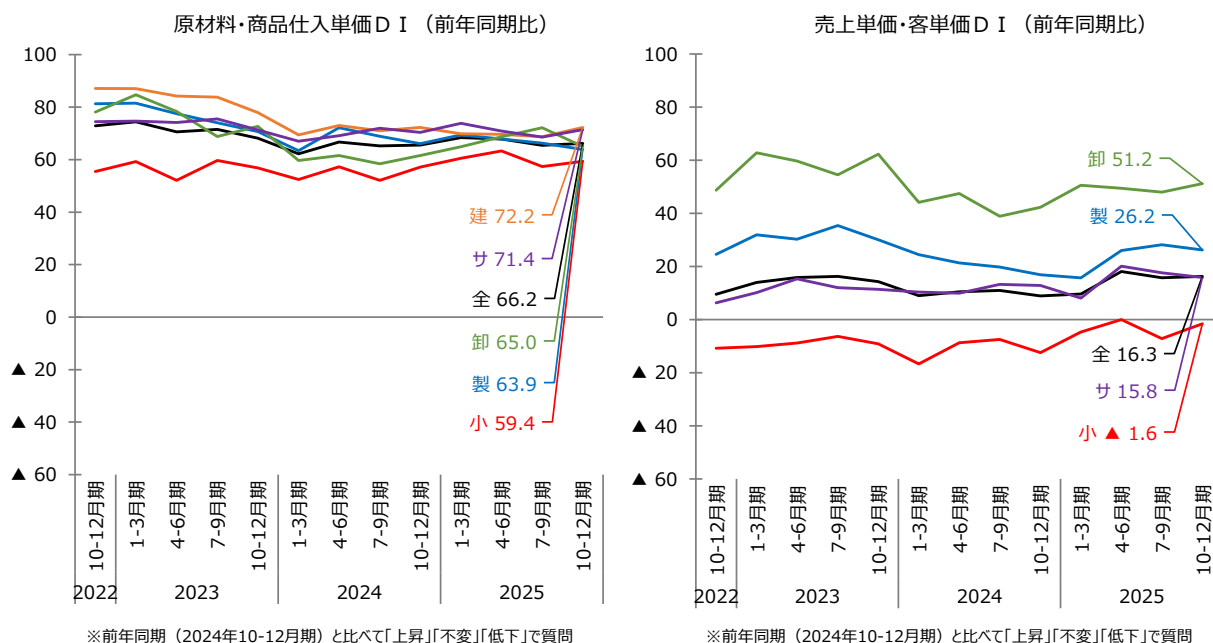
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より1.8ポイント増の▲20.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、卸売業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の66.2と3期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の16.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業で上昇し、製造業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、四国：1,279企業

※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 四国

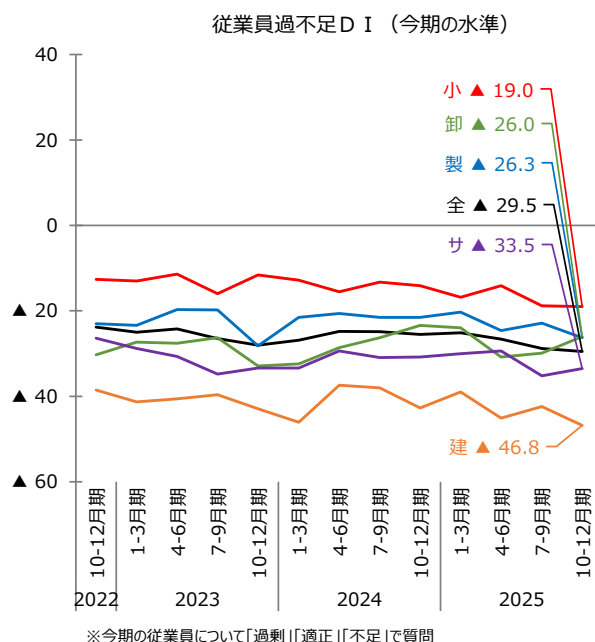
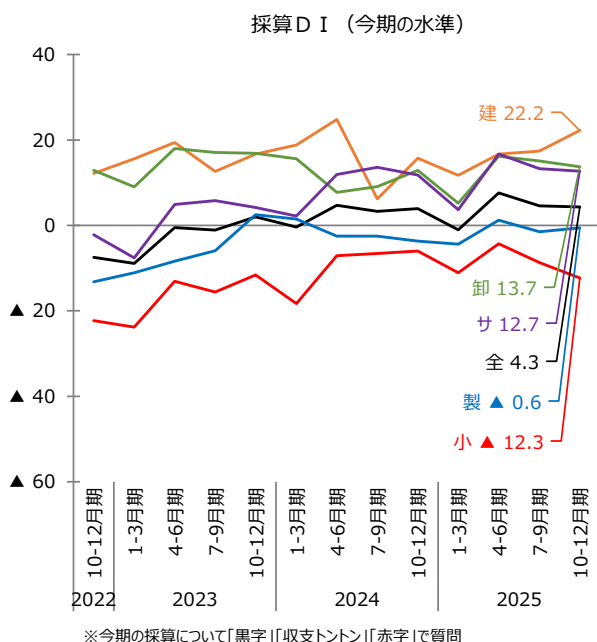


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.3ポイント減の4.3と2期連続してやや低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、小売業、卸売業、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の▲29.5と3期連続してやや低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業、小売業で低下した。



5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	消費が低迷している。さらに原材料の上昇、最低賃金の上昇とマイナス要素が続いており非常に厳しい。	製造業	段ボール製造業
	従業員・技術者不足による、引き合いに対して受注を断る状況が続いている。特に、設計業務と工事管理業務の人材が集まらない状況で、採用活動に苦慮している。	建設業	一般土木建築工事業
	商品を値上げせざるを得ない状況が収まらず、消費者の購買意欲が低下。売上はかなり厳しい状態となっている。	卸売業	輸送用機械器具卸売業（自動車を除く）
	残暑が続く、冬物の出足がかなり遅れた。期待はない。一般家庭からの需要は買い控えが続いていると感じる。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	気候の変化等の影響が宿泊客にも及んでおり特にお遍路さんの宿泊が例年に比べ少なくなっている。また、秋の連休などで家族連れのお客さんも減っており、売上高が減少するなど先行きへの不安を感じている。	サービス業	旅館、ホテル
見通し	案件減少、受注単価低下、金利負担の増加等先行きが不透明である。	製造業	鉄骨製造業
	現状では、引き合い等は活発であるが、人員の不足が一番の問題となっている。	建設業	建築工事業（木造建築工事業を除く）
	短期的には大きな変化はないが、長期的には国内のタオルを加工する工場が減り、納期の問題や価格上昇が考えられる。他の商材の取り扱い等も検討する必要性を感じている。	卸売業	その他の衣服卸売業
	最低賃金の上昇が経営状況に大きく影響することが見込まれる。人件費分の上昇を販売価格へ転嫁したいと考えるが、安売り店への消費流出が懸念され業況は厳しくなると見込んでいる。	小売業	食料品スーパーマーケット
	従業員の確保が難しく、外国人材に頼らざるを得ない状況で、それに係る経費の負担増、最低賃金上昇による人件費増大も負担が大きい。価格転嫁もうまく進めることができていないのが現状で、厳しい状況が続くと思う。	サービス業	自動車一般整備業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)